日本語配慮表現データベース構築プロジェクト報告(2)

—2019 年度の活動報告—

山岡政紀（創価大学）

要　旨

2018 年度より採択を受けた科研費基盤研究（B）研究課題「日本語配慮表現辞典の基盤形成のための配慮表現正用・誤用データベースの構築」の研究期間の２年目に当たる 2019 年度に行った諸活動について報告する。具体的活動としては、2019 年 8 月に行った研究合宿の内容（第 3 節）、今年度に入力作業を開始したデータベースの構造（第 4 節）2019 年 11 月に刊行した新刊書『日本語配慮表現の原理と諸相』（くろしお出版）の内容（第 5 節）などについて報告する。

キーワード:配慮表現、データベース、ポライトネス、慣習化、文脈依存

1. はじめに

2018 年度 4 月に採択を受けた科学研究費補助金基盤研究（B）研究課題「日本語配慮表現辞典の基盤形成のための配慮表現正用・誤用データベースの構築」が、2019 年度は 4 年間の研究期間の 2 年目を迎えた。初年度の 2018 年度の活動には大別して二つの柱があった。第一の柱は研究者間の連携、コンセンサスの形成である。具体的には共有フォルダやメーリングリストの作成などの連携ツールの整備と、研究合宿の開催による配慮表現研究法やデータベースの構造に関するコンセンサスの形成であった。第二の柱は、新刊書『日本語配慮表現の原理と諸相』の企画・執筆であった。これらの活動についてはプロジェクト報告(1)（以下、報告(1)とする）にて報告した通りである。

2019 年度の活動はこの二つの柱から継続するものである。すなわち、第一の柱からの継続として、具体的なデータベース入力を開始することである。第二の柱として新刊書『日本語配慮表現の原理と諸相』を 2019 年 11 月にくろしお出版より刊行したことである。本プロジェクト報告(2)ではこの 2 項目について概略を報告することとする。

なお、本プロジェクト報告(2)は「日本語コミュニケーション研究論集」第 9 号に収録するものである。この論集は、本研究課題の研究代表者（本稿の筆者。以下、この呼称で記載する）並びに研究分担者牧原功氏、小野正樹氏を研究代表者とする科研費研究課題の合同研究会として 2011 年 2 月より運営している「日本語コミュニケーション研究会」の論集であり、それぞれの科研費報告書を兼ねるものである。

2. 本研究課題の概要

本研究課題の概要は以下の通りである。

研究課題:日本語配慮表現辞典の基盤形成のための配慮表現正用・誤用データベースの

構築

研究課題（英文）: The Database Construction of Correct Use and Misuse in Considerate Expressions for the Dictionary of Japanese Considerate Expressions

研究期間：2018 年～2021 年（4 年間）

研究種目：基盤研究（B）

研究課題/領域番号：18H00680

研究経費配分額：9,750 千円（直接経費 ： 7,500 千円、間接経費 ： 2,250 千円）

研究経費 2018 年度: 2,860 千円（直接経費 ： 2,200 千円、間接経費 ： 660 千円）

研究経費 2019 年度: 2,080 千円（直接経費 ： 1,600 千円、間接経費 ： 480 千円）

※なお、前年度より 200 千円の繰越を学術振興会に申請し、承認された。これは、2018 年度に執行する予定であった論集の刊行並びにデータベース入力システムの構築が、それぞれの担当業者の事情により遅延したことによる。繰越分の経費については 2019 年度に申請通りの内容で執行した。

キーワード：配慮表現 / 敬意表現 / ポライトネス / 慣習化

研究代表者：山岡政紀（創価大学）

研究分担者：牧原功（群馬大学）、小野正樹（筑波大学）、三宅和子（東洋大学）、甲田直美（東北大学）、西田光一（山口県立大学）、斉藤信浩（九州大学）、大和啓子（群馬大学）、伊藤秀明（筑波大学）、斉藤幸一（広島修道大学）、遠藤李華（創価大学）、以上 10 名

研究協力者（国内）: 野田尚史（国立国語研究所）、徳井厚子（信州大学）、大塚望（創価大学）、塩田雄大（NHK 放送文化研究所）、宮原千咲（実践女子大学）、池上達昭（くろしお出版）、以上 6 名

研究協力者（海外）: 李奇楠（中国・北京大学）、陳臻渝（中国・華僑大学）、金玉任（韓国・誠信女子大学）、カノックワン・ラオハブラナキット片桐（タイ・チュラロンコン大学）、リナ・アリ（エジプト・カイロ大学）、岩崎透（インドネシア・国際交流基金）、ウマロヴァ・ムノジャット（ウズベキスタン世界言語大学）、市川真未（米国・ジョージワシントン大学）、以上 8 名

3. 2019 年度研究合宿の開催

3.1 研究合宿の概要

2019 年 8 月 26 日～28 日の 2 泊 3 日で、JR 熱海駅近くの「みかんの木」会議室にて「日本語コミュニケーション研究会・研究合宿」を開催した。今回も研究分担者牧原功を研究代表者として採択を受けた科研費研究課題の研究合宿との合同開催である。

今回の研究合宿には研究代表者 1 名、研究分担者 8 名、研究協力者 3 名、大学院生 2 名、学部生 1 名の合計 15 名が参加し、うち 12 名が研究発表を行った。発表者と発表テーマは下記の通りである。

8 月 27 日（火）午前：第 1 セッション

①伊藤 秀明（筑波大学） 学習者の配慮表現誤用例収集における課題―学習者コーパスの分析から

②斉藤 信浩（九州大学） 日本語と韓国語の「一応」の意味分析

③大和 啓子（群馬大学） 「～てしまう」に見られる配慮

8 月 27 日（火）午後：第 2 セッション

④山岡 政紀（創価大学） 配慮表現データベースの入力について

⑤牧原 功（群馬大学） ポライトネスとテンス・アスペクト

⑥小野 正樹（筑波大学） 寛容な日本語の記述に向けて（仮）

8 月 27 日（火）午後：第 3 セッション

⑦西田 光一（山口県立大学） 定型表現の談話機能：文の生成とストーリーの生成の反比例

⑧李 奇楠（北京大学） 賛否両論の発話について

⑨リナ・アリ（カイロ大学） カイロ大学の高等教育に日本式教育を導入した取り組みについて

8 月 28 日（水）午前：第 4 セッション

⑩遠藤 李華（創価大学） 「大丈夫」のコミュニケーション上の特質―日本語学習者を対象にー

⑪斉藤 幸一（広島修道大学） 《助言》における配慮表現

⑫金 玉任（韓国誠信女子大学） 前置き的に用いられる「ね」

発表者は全員が本研究課題の研究代表者、研究分担者、研究協力者である。

このうち、⑦と⑨を除く 10 件の研究発表が本研究課題に関連するものである。特に①、②については、本研究課題の方法論に関する具体的な提案が含まれていた。その他も各自の配慮表現研究の進展を示すもので、充実した研究合宿となったと言える。個々の研究発表の詳細については省略する。

3.2 基調報告：配慮表現データベースの入力について

前節で報告した研究合宿の④基調報告について概略を報告する。他の研究発表が質疑応答を含めて持ち時間が 30 分であったのに対し、本基調報告のみ 1 時間の持ち時間で行った。その内容は以下の通りである。

１．科研費研究計画の概要

２．科研費研究計画の構成メンバー

３．出版の経過報告

４．形式分類と機能分類の最新版

５．配慮表現データベースの構造：最新版

６．データベース入力例：お言葉に甘えて、滅相もない、たしかに

７．今後の予定

このうち、１、２については第 2 節に記載した通りである。3 の出版の経過報告は 8 月

時点での経過報告であるが、刊行後の報告について第5節に記載する。５、６のデータベースの構造については第4節にて詳しく報告する。

4.　配慮表現データベースの入力作業

4.1 研究合宿における報告と提案

8月の研究合宿の基調報告において、研究代表者は試行版入力フォームを用いて検討してきた配慮表現データベースの構造案として、以下を提案し、意見聴取した。

①＜配慮表現＞☆　配慮の表現形式・語彙
　＜配慮表現よみ＞☆
②＜形式分類＞☆（副詞・副詞句、形容詞類、接尾語・補助動詞、文末表現、慣用文、文法形式の交替）
③＜機能分類＞☆（利益表現、負担表現、緩和表現等）
④＜原義＞☆　文脈や対人的機能を捨象した辞書的意味。本来の意味・用法。
⑤＜配慮機能＞☆　当該配慮表現が発話において果たす効力。その記述に当たってはLeechやB&Lのポライトネス理論を積極的に活用する。使用・不使用テストなどの文法テストのほか、必要に応じてアンケート、インタビュー調査を行う。
⑥＜文脈・発話機能＞☆配慮表現が使用される当該発話、及びその文脈となる先行発話の発話機能＝発話の目的⇒配慮表現の使用目的
⑦＜表現文型＞☆＝学習者用表現文型（典型的作例）
⑧＜用例＞＝会話コーパスから取得した正用例　主に対人機能が明確な話し言葉コーパスから実例を収集
⑨＜誤用例＞＝学習者コーパスから取得した誤用例
⑩＜考察＞△以上の各項目を総合的に統括する考察
⑪＜外国語への対訳＞△　英、中、韓、タイ、アラビア語
⑫＜参考文献＞☆　先行研究の文献名
☆、△の項目を『日本語配慮表現辞典』に登載

このうち、☆印の付いた項目を将来構想の『日本語配慮表現辞典』に登載する。△は辞典への登載を個々に取捨選択すべき項目である。いっぽう、⑧と⑨のコーパスから収集する実例については、あくまでも研究資料として収集するが辞典には掲載しない。その理由は、紙幅を大幅に取ってしまう点、各用例に対して相応の説明を要してしまう点、著作権の確認などを要する点などを考慮することによる。ただし、⑧と⑨の実例を参考にして⑦に担当者が簡潔にアレンジして作成した自作の作例を表現文型として記載することは可とする。

4.2 データベース入力例—お言葉に甘えて

基調報告においては、事例報告として成句の配慮表現である「お言葉に甘えて」のデータベース入力例を提示した。その内容は以下の通りである。

＜配慮表現＞お言葉に甘えて

＜配慮表現よみ＞おことばにあまえて
＜形式分類＞副詞句
＜機能分類＞利益表現
＜原義＞お申し出に応じて
＜配慮機能＞あなたのご厚意によるお申し出をありがたく受け入れてその通りに
＜文脈・発話機能＞相手の《協力》や《提供》などの申し出を受け入れる際、それを遠慮なく受け入れて従うことを《感謝》を込めて表現する。
＜表現文型＞（用例）①A「ついでに家まで車で送ってあげようか」
B「じゃ、お言葉に甘えてお願いします」
（説明）①A の《協力》を B が受け入れる意思表示に感謝を込めて用います。
（用例）②A「おかわりはいかがですか」
B「お言葉に甘えていただきます」
（説明）②A の《提供》を B が受け入れる意思表示に感謝を込めて用います。
＜用例＞(1)「手伝いましょうか？」
「いいえ、いいの。これは社長の仕事ですもの。それに結構面白いのよ」
「でも疲れてるみたい。本当にいいの？　別に急ぐわけでもないんでしょ、そんなこと」
「やりかけたから、終わらせたいの。どうぞ先に帰って」
「言い出すと頑固ね、伸子さんも。じゃ、お言葉に甘えて」
「お疲れさま」（女社長に乾杯！）
(2)「信用できなきゃ車に乗ってけ。俺はここでまだしばらく飲んで行く」
「はあ。ではお言葉に甘えて……」（女社長に乾杯！）
＜考察＞寛大性の原則「自己の利益を最小限にせよ」から見れば、相手の厚意によって自分が利益を得ることは辞退するべきであるが、相手の《協力》や《提供》の言葉を尊重し、それに従うことは一致の原則に従うもので許される。「お言葉に甘えて」は後者の原則を優先させることを示す働きがある。
＜対訳・英＞Allow me to take up your kind offer.
以上である。なお、未入力の項目については記載を省略した。試行版の入力を通して改善した点は作例による＜表現文型＞の項を新設したこと。そして、その内部構造を用例と説明の二本立てとしたことである。これは『日本語文型辞典』(グループ・ジャマシイ編著、1998 年、くろしお出版刊）の方式を踏襲したものである。

4.3 データベース入力作業について

4.3.1 入力フォーマットと分担作業

データベース入力作業は、本来は業者に外注してウェブサイト上に設置した専用システムに入力していく形を想定しているが、業者との契約、予算の執行の都合上、今年度はこの専用システムを使用しない。その代わりにシステムをワープロ（Microsoft Word）文書にベタ打ちする原始的なやり方で項目入力して行う。来年度以降、入力システムが正式稼働した段階でワープロ文書から転記する予定である。

本作業の開始に当たり、下記の入力フォーマットを作成した。

①＜配慮表現＞
　＜配慮表現よみ＞
②＜形式分類＞
③＜機能分類＞
④＜原義＞
⑤＜配慮機能＞
⑥＜文脈・発話機能＞
⑦＜表現文型＞
　【文型】
　【説明】
⑧＜考察＞
⑨＜正用例＞
⑩＜誤用例＞
⑪＜対訳・英＞
　＜対訳・中＞
　＜対訳・韓＞
　＜対訳・タイ＞
　＜対訳・アラビア＞
⑫＜参考文献＞
⑬＜記載者／日付＞

4.1 の合宿での提案から検討を経て変更した部分は＜考察＞の位置を⑩から⑧へ繰り上げたことである。これは将来的な辞典編纂のためのデータベースであることを考慮すれば、辞典の収録項目の相互連関を重視し、まとめておくことが有益と判断したことによる。

担当については、当初計画通りに行うとすれば、Ａチーム（以下、チーム編成の詳細は報告(1)を参照のこと）が①～⑨、Ｂチームが⑩を担当語彙別に入力し、Ｃチームが⑪を語彙横断的に入力することになる。しかし、誤用例収集の難しさと有益性に研究分担者から再三疑義が提起されたことにより、⑩を任意入力項目扱いせざるを得なくなったことから、Ａ・Ｂチームの区分をやや緩やかにしてその全員で①～⑩の入力を行うことにした。

合宿後の 9 月より入力開始した第 1 期入力の担当語彙は以下の通りである。

(1) ちょっと：牧原功
(2) よね：金玉任
(3) なんか：大和啓子
(4) させていただく：塩田雄大
(5) ぜんぜん：斉藤幸一
(6) 引用表現（～って）：小野正樹
(7) なるほど：李丹
(8) 大丈夫：遠藤李華
(9) というか：孫守乾

このうち(1)～(6)はくろしお出版『日本語配慮表現の原理と諸相』第Ⅱ部「日本語配慮表現の諸相」の筆者陣である。本書の成果を活かした入力作業を期待している。(7)～(9)については研究代表者山岡の指導のもと配慮表現を研究している創価大学大学院生である。彼らの研究成果を活かした入力作業を期待している。これについては研究代表者の責任において査読を行い、必要な加筆修正を行うものとする。以上の分担作業は2月末日を締切としており、本稿執筆時点では未完了である。上記9名のうち(1),(3),(5),(6)は研究分担者である。(2)は海外機関勤務、(4)は所属研究機関の事情により研究協力者、(7)～(9)も研究機関に所属しない大学院生のため研究協力者となっている。

また、研究代表者はこれまでの著作山岡・牧原・小野(2010)、同(2018)などで既に公開している配慮表現の研究成果をデータベース形式に転換する作業を同時進行で行う。

2020年度には第2期のデータベース入力を開始するが、第1期の状況を踏まえて対象語数、担当者数を増やしていく予定である。入力システムが正式稼働すれば作業効率も高まり、徐々にペースアップしていくものと考えている。

4.3.2　入力マニュアル

各入力担当者に対して、以下の内容の入力マニュアルを交付した。

①＜配慮表現＞☆　配慮の表現形式・語彙

＜配慮表現よみ＞☆　配慮表現のひらがな表記

②＜形式分類＞☆（副詞、副詞句、形容詞・形容詞句、接尾語・補助動詞、文末表現：助動詞／終助詞／思考動詞／二重否定／言いさし／条件情意、慣用文、文法形式の交替）の7分類のいずれかを選択してください。

※形容詞・形容詞句、接尾語・補助動詞はそれぞれ1分類とします。

※文末表現を選択した場合は、：の右に下位分類を一つ選択してください。

※どの分類に該当するか不明な場合、新しい範疇が必要と思われる場合は研究代表者に問い合わせてください。

③＜機能分類＞☆（利益表現：自利大／自利大（感謝）／他利小、負担表現：他負大／他負大（謝罪）／自負小、緩和表現：侵害抑制／不一致回避、賞賛表現、謙遜表現：自賛抑制／自己非難、賛同表現、共感表現）の7分類のいずれかを選択してください。

※下位分類があるものは、：の右に下位分類を一つ選択してください。

※どの分類に該当するか不明な場合、新しい範疇が必要と思われる場合は研究代表者に問い合わせてください。

④＜原義＞☆　文脈や対人的機能を捨象した辞書的意味。本来の意味・用法。辞書から該当箇所を引用する場合は当該辞書名も記載してください。

⑤＜配慮機能＞☆　当該配慮表現が発話において果たす効力。要するに配慮表現としての意味。その記述に当たってはLeechやB&Lのポライトネス理論を積極的に活用してください。必要に応じて、使用・不使用テストなどの文法テストのほか、アンケート、インタビューによる意識調査を行ってください。

⑥＜文脈・発話機能＞☆　当該配慮表現が使用される（使用されやすい）文脈を記述し、（先行発話と）当該発話の発話機能を記述してください。

⑦＜表現文型＞☆＝学習者用表現文型　日本語学習者にわかりやすい典型的用例を作例して【文型】としてください。その際、必要に応じて文脈等を明示した【説明】を添えてください。【説明】は日本語学習者にもわかるような平易な言葉で記してください。【文型】に用いる作例には丁寧体（ですます）、【説明】には普通体（である）を使ってください。複数の文型を提示する必要がある場合は、【文型１】【説明１】、【文型２】【説明２】と番号を添えてください。会話の話者はA、Bで表示してください。

⑧＜考察＞△①～⑦を総合的に統括する考察（200～800字）　当該配慮表現について論文等を作成されたことがあればその要旨を記載してください。新たに書き下ろしてもかまいません。考察中に用例を用いる場合はなるべく⑦の【文型】を用いるようにしてください。

⑨＜正用例＞＝会話コーパスから取得した正用の実例　主に対人機能が明確な話し言葉コーパス、シナリオコーパス、小説中の会話文などから実例を収集して転記してください。原則として３例以上、上限は設けません。その際、出典をかっこ書きで添えてください。

※原義ではなく配慮表現としての用例であることを必ず確認してください。

⑩＜誤用例＞＝学習者コーパスから取得した誤用例（任意項目）　配慮表現の機能を誤解したような誤用例があれば転記してください。その際、出典をかっこ書きで添えてください。

※配慮表現を使うべきところで使わない非用例も可。その場合、趣旨説明を添えてください。

⑪＜外国語への対訳＞△　英、中、韓、タイ、アラビア語　専門の担当者（Ｃチーム）があとで記載しますので当面は記載しなくてもかまいません。(アイデアがある場合は記載してもかまいません)

⑫＜参考文献＞△　先行研究の文献名　論文末の参考文献一覧と同じ様式

⑬＜記載者／日付＞記載者氏名と記載日の日付（yyyymmdd）

☆の項目を『日本語配慮表現辞典』に登載します。△は内容を精査のうえ、取捨選択して登載します。

ここで、②＜形式分類＞、③＜機能分類＞については、『日本語配慮表現の原理と諸相』の第３章「配慮表現の分類と語彙」に記載した分類案を選択肢として記載することになっている。入力システムが正式稼働した際はプルダウンあるいはラジオボタンによる選択入力となる予定である。

⑥＜文脈・発話機能＞、⑦＜表現文型＞、⑧＜考察＞については、そのまま将来構想の『日本語配慮表現辞典』の原稿へと移行することを想定して、わかりやすい平易な記述にするように呼びかけている。特に⑦は『日本語文型辞典』の記述方式を参考にしている。

4.3.3 データベース入力サンプル

データベース入力サンプルとして、研究代表者が先行入力した３語について提示した。その一つは合宿の際にもデータベース入力例として提示した「お言葉に甘えて」である（4.2)。他の二つについて以下に掲示する。

4.3.3.1 滅相もない

①＜配慮表現＞滅相もない

＜配慮表現よみ＞めっそうもない

②＜形式分類＞形容詞

③＜機能分類＞緩和表現：侵害抑制

④＜原義＞滅相（仏教で事物や生物の消滅の相）のように全くない

⑤＜配慮機能＞あなたが思っているような悪意は私には全くありません。

⑥＜文脈・発話機能＞自分が悪意を持っていると疑念を持った相手からの《非難》に対して、そんなつもりはないと否定して疑念の解消を図る《感情表出》

⑦＜表現文型＞

【文型】A「君たちは私の授業がおもしろくないから、居眠りしているのですか」B「めっそうもありません。先生の授業は大好きですが、昨晩徹夜をしてしまって。申し訳ありません」

【説明】B が A に対して悪意を持っていると A が疑いをかけたとき、それに対して B がその悪意がないことを A に伝えて安心させたいときに用いる。

⑧＜考察＞相手から《不満表明》や《非難》を引き起こすほど明らかな不利益を相手に与えてはいないものの、こちらの心理を悪意に受け止められて疑念を持たれていると感じられるような文脈で、その疑念を打ち消して、相手に対して悪意がないことを伝えようとするときに「滅相もない」が用いられる。類似の表現に副詞「毛頭」がある。

⑨＜正用例＞

(1)(女医に好奇心を持った男たちが指を怪我したと言って治療に訪れるのに対して、受付の看護婦が答える)「診てあげられないわけでもありませんが、家は御覧のとおり女の患者さんが多いのですから大人しくしてくれなければ困りますよ」「滅相もない、血が出てるのに騒ぐわけはねえだろう。とにかく女先生に頼んでみてくれよ」(花埋み)

(2)仮面男(青蛙)「お前なぜ笑う」

兄役「へ…!?」

仮面男(青蛙)「笑ったな」

兄役「めっ、めっそうもない、アアッ」

女「へっへっへキャー」(千と千尋の神隠し)

⑩＜誤用例＞なし

⑪＜対訳・英＞

＜対訳・中＞

＜対訳・韓＞

＜対訳・タイ＞

＜対訳・アラビア＞

⑫＜参考文献＞

⑬＜記載者／日付＞山岡政紀／20191005

4.3.3.2 たしかに

①＜配慮表現＞確かに
　＜配慮表現よみ＞たしかに
②＜形式分類＞副詞
③＜機能分類＞賛同表現
④＜原義＞明白で、間違いのないさま。確実であるさま
⑤＜配慮機能＞あなたの意見と同じく、あなたの意見に賛成
⑥＜文脈・発話機能＞相手の《主張》に対して、それを肯定的に受け入れる《賛同》に用いる。また、当該発話の《賛同》に続いて後続文脈で《反論》を展開することも多い。その場合、話者の目的は《反論》であって《賛同》の発話は緩和のための前触れにすぎない。
⑦＜表現文型＞
【文型１】Ａ「その音楽は最近テレビでも流れているんじゃないでしょうか」
　　Ｂ「たしかに私も聞いたことがあるような気がします」
【説明１】Ａの意見に対してＢが賛同の意を表すときに「たしかに」を用いる。この場合のように推量などの不確実な陳述に対しても用いることができる。
【文型２】Ａ「おかげさまで昨日の試合に勝ちました」
　　Ｂ「たしかにあなたは試合には〔勝ちましたが／勝ったかもしれませんが〕、実力はまだまだだと思ったほうがいいですよ」
【説明２】Ａの意見にＢが反論したいときに、反論の前に「たしかに」を用いて部分的賛同を表すことによって反論の強さが和らぐ。この場合、「たしかに」のあとに「かもしれない」をあわせて用いることも多い。
⑧＜考察＞
　副詞「たしかに」の原義は明らかで間違いのないさまを表すが、【文型１】のような相手の意見に対して応答する文脈では、しばしばポライトネスの原理の一致の原則「自己と他者との意見一致を最大限にせよ」の機能を果たし、相手に対する《賛同》を表す配慮表現となる。その際、相手の意見が推量や憶測などの不確実な陳述であっても「たしかに」を用いることができ、その《賛同》の発話もまた不確実なままである。その場合、原義の「確実であるさま」は喪失していると言える。「今日は寒いね」「たしかに」のように、《感情表出》に対する《共感表出》にも用いることができる（その場合の分類は共感表現）。また、「たしかに」一語のみを用いて応答する感動詞的な用法も多く用いられる。
　また、【文型２】では、《反論》を表明するにあたり、その前置きとしての部分的な賛同を示して譲歩する機能が示されている。このように、聴者のポジティブフェイスに配慮することによって、《反論》によって生じるFTAを緩和させるためのストラテジーとして使用される。このような場合、「かもしれない」をセットで用いて《反論》を誘導することも少なくない。この場合の「かもしれない」もまた、可能性の原義は

喪失しており、緩和の意味に特化された配慮表現である。

⑨＜正用例＞

(1) F160：　ただ何か、肌、肌がすごくぶつぶつの人って、ぶつぶつっていうか、ニキビとかすごく人いるでしょう。

F160：　その人がだめなの。

F045：　うん、見た目じゃん。

F045：　＜笑い＞

F160：　それはだめなの、本当に。

F045：　確かにねー、何か、汚い感じのする人ってやだよね。（名大会話）

(2)　合田の理論によれば、つまり（中略）印象度が半減相殺しあうはずではないかということであった。「たしかにそうかもしれないがスターにはファンがいるんじゃないかな？」（巨人と玩具）

(3)　みのり「！お言葉ですが、確かに憲太郎とは血が繋がっておりません。ですが、あの子は亡くなった夫の息子です。ですから、憲太郎は、私の息子です」（グッドモーニング）

(4)　それでは男の風上にもおけない、夫の権威はまるつぶれではないか。そのことについて、抄子は一言、「一人では不便だからでしょう」といったことがある。たしかに不便かもしれないが、それくらいのことで簡単に妻に頭を下げるものなのか。これでは妻への全面降伏ではないか。（うたかた）

⑩＜誤用例＞

⑪＜対訳・英＞surely, I agree with you

＜対訳・中＞的确

＜対訳・韓＞

＜対訳・タイ＞

＜対訳・アラビア＞

⑫＜参考文献＞原田信一（2010）、刀祢睦月（2013）、李丹（2019）

⑬＜記載者／日付＞山岡政紀／20180824

5. 新刊書『日本語配慮表現の原理と諸相』の刊行

5.1　『日本語配慮表現の原理と諸相』刊行までの経緯

2019 年度における本研究課題の最大の成果は新刊書『日本語配慮表現の原理と諸相』（以下、本書）を 2019 年 11 月 18 日付でくろしお出版より無事に刊行できたことである。本書は本研究課題の研究代表者である山岡が編者を務め、他の著者も全員が本研究課題の研究分担者または研究協力者であり、本研究課題の研究計画の一部として企画したものである。

本研究課題の最終目的は将来的な『日本語配慮表現辞典』の作成のための基盤となるデータベース構築であるが、その前段階に当たる理論基盤を確立する役目を担ったのが本書の刊行である。これによって配慮表現とは何かを明確にし、配慮表現研究のガイドラインを示すことを意図している。そのことによって必然的に本研究課題が目指している『日本語配慮表現辞典』とはいったいどのようなものを意図しているのかも明確になる。

本書の計画は本研究課題の申請よりも数年早い 2015 年頃から存在し、くろしお出版の編集者池上達昭氏や共同研究者である牧原功氏、小野正樹氏らとはその構想について協議を重ねてきた。2017 年夏頃にはほぼ構想が固まりつつあったが、その後の 2017 年 10 月に本研究課題を申請する段階で研究計画に盛り込んだ。

本書の執筆から刊行までのスケジュールは、2018 年 4 月に序章を含む全 13 章の構想で、編者より他の筆者 9 名に執筆依頼を行った。当初は 2019 年 3 月末日までの完全出稿、2019 年 9 月の刊行を目標に設定した。その後、著者の一人小野正樹氏と協議し、若手研究者にも投稿のチャンスを与えようということになり、査読を前提に 2 組（3 名）の若手に執筆の機会を打診した。この 2 組には他の著者より早い 2019 年 1 月末日を投稿期日としたが、いずれも期日までに初稿が提出された。編者による査読の結果、修正採用と判定された。修正稿は 2019 年 3 月末日までに提出され、編者が修正内容を可と判定し、これによって新刊書が全 15 章となることが確定した。

2019 年 3 月末日までに予定通り全章の投稿が出揃った。この後、編者は全章に目を通し、各章の著者に対して要望や質疑を行った。また、当初、各稿のタイトルは暫定的なテーマのみ示したシンプルなものであったが、各稿の内容が確定したことを踏まえて改めて編者と各著者とのあいだで協議を行い、タイトルを変更して確定し、これを章名とした。以上の作業を経て 2019 年 5 月上旬に全章の提出稿を揃え、編者よりくろしお出版に出稿した。

その後 2019 年 7 月下旬より 8 月下旬までを校正期間とし、初校、第二校、章によっては第三校までを行った。最終的に当初の目標であった 2019 年 9 月の刊行には間に合わなかったものの 11 月 18 日付で刊行できる運びとなった。編集担当は本研究課題の研究協力者の一人であるくろしお出版の池上達昭氏であるが、同氏の談によるとこの種の研究書の出版は当初予定より遅れることが常態化しており、2 ヶ月遅れで刊行できたのはむしろ早いほうとのことであった。

5.2 『日本語配慮表現の原理と諸相』の概要

最終的に確定した各章のタイトルは下記の通りである。

『日本語配慮表現の原理と諸相』くろしお出版、2019 年 11 月 28 日刊行

序章　配慮表現とは何か　山岡政紀（創価大学）

第Ⅰ部　配慮表現の原理　山岡政紀（創価大学）

第 1 章　配慮表現研究史

第 2 章　配慮表現の定義と特徴

第 3 章　配慮表現の分類と語彙

第Ⅱ部　日本語配慮表現の諸相

第 4 章　配慮表現「ちょっと」の機能と慣習化　牧原功（群馬大学）

第 5 章　配慮表現「よね」に見られる情報共有の諸相　金玉任（誠信女子大学）

第 6 章　とりたて詞「なんか」の捉え直し用法に見られる配慮表現　大和啓子（群馬大学）

第７章　配慮表現「させていただく」の違和感をめぐって
塩田雄大（NHK 放送文化研究所）
第８章　配慮表現としての「“全然”＋肯定形」　斉藤幸一（広島修道大学）
第９章　引用表現における配慮表現　小野正樹（筑波大学）
第10章　モバイル・メディアにおける配慮　三宅和子（東洋大学）
第Ⅲ部　配慮表現と対照研究
第11章　代名詞の指示対象から見た対人配慮の日英対照
西田光一（山口県立大学）
第12章　慣習的配慮表現の日中対照　李奇楠（北京大学）
第13章　配慮表現の日本語・アラビア語対照　リナ・アリ（カイロ大学）
第14章　配慮表現の日本語・ウズベク語対照　岩崎透（国際交流基金）・
ウマロヴァ・ムノジャット
（ウズベキスタン世界言語大学）

本書序章では研究代表者が重要な問題提起を行っている。それは章名の通り、そもそも「配慮表現とは何か」ということである。「配慮表現」という用語の出現は生田（1997）が初出と考えられる（1.1 参照）。これ自体はポライトネス理論の日本への紹介が機縁となっている。この段階での「配慮表現」は極めて抽象的な概念である。しかし、この「配慮表現」という用語が二十世紀に入って急速に定着していったのは、「配慮表現」と呼ぶべき具体的な表現群の存在が直観的に把握されたからであった。例えば、依頼を行う際の前置きに言う「すみませんが」や「悪いけど」といった謝罪表現、「よろしければ」や「お時間があれば」といった条件提示表現など。同じことは古典語の時代から「憚りながら」、「恐れながら」、「無心ながら」、「大儀ながら」、「率爾ながら」などの表現が繰り返し用いられていたことが報告されている（米田(2014)など）。また、贈りものを贈る際の「つまらないものですが」のような特徴的な表現の存在もかねてからよく知られている。まだ「配慮表現」の厳密な定義を行っていない段階であっても、このような表現群の存在に接するだけで『日本語配慮表現辞典』の必要性やイメージが湧いてくる。そして、結果的にこれらの表現について考察した論考の多くはポライトネス理論による説明を試みていた。

このように、ポライトネス理論からの理論主導で「配慮表現」を概念として想定する立場と、言語現象として具体的に把握される「配慮表現」の説明にポライトネス理論を援用する立場は、よく似てはいるが異なる志向性を有する。これが本書序章で言及した二つの立場に対応している。すなわち、配慮表現とは、１）固定した語彙、語句としてリストアップが可能なものなのか、それとも２）単に機能的現象に過ぎないのか、このいずれなのかということである。

生田（1997）の立場は配慮表現を「言葉のポライトネス」とする立場で、ポライトネスが極めて文脈依存的な機能現象である以上、２）の立場を取ることとなり、一定の言語表現に帰着させてしまうことは好ましくないことになる。ところが、配慮表現の存在を定着させていったのは具体的な表現群、語彙群であるから、１）の立場を取っていることになる。本書序章では、この二つの立場の併存を明らかにしたうえで、本書では１）の立場か

ら議論を進めていくことを宣言している。これによって、配慮表現と呼ぶに値する語彙や語句をリストアップする１）の立場が可能となる。つまり、本書の主張が『日本語配慮表現辞典』にとって不可欠な存立基盤を提示したのである。

そうした観点から配慮表現を研究するための原理を整理したのが本書第Ⅰ部「配慮表現の原理」（第１章～第３章、研究代表者山岡担当）である。第１章「配慮表現研究史」では配慮表現という用語の初出から今日までに公刊されている配慮表現研究の流れを概観した。配慮表現という用語の出現には、ポライトネス理論の日本への紹介が関連しており、そうした理論志向の系譜が上述の１）の立場、個々の表現の分析といった語法論志向の系譜が同じく２）の立場に相当し、二つの流れが並行している。

第２章「配慮表現の定義と特徴」では、配慮表現の定義を明確にし、それによって必然的に浮かび上がってくる配慮表現の文法的特徴について述べている。１）の立場からは本来、機能的現象であるはずのポライトネスが、２）の立場の特定の語彙や表現に固着した機能として把握されるに至る橋渡し、つまり理論と言語現象の架橋として「慣習化」の概念を用いて説明した。このことを論じるためにメタファーが慣習化した慣用句、また、それが辞書に登載されていく現象についてアナロジーとして述べた。

第３章「配慮表現の分類と語彙」では、配慮表現の分類として形式分類と機能分類の２種の分類を提示した。それは配慮表現内における内部区分を示すものであると同時に、どこまでが配慮表現に入り得るのかという適用範囲を示すものともなっている。この傾向が特に顕著に現れるのは機能分類である。第２章が配慮表現の内包的定義であるとすれば、第３章は外延的定義を示しているとも言える。

第Ⅱ部「日本語配慮表現の諸相」（第４章～第 10 章）は、第３章でリストアップされた配慮表現語彙群のなかからいくつかを取り上げて、その配慮機能についてポライトネス理論をもとに考察する。

第４章（研究分担者牧原担当）では、典型的な配慮表現の一つである副詞「ちょっと」を取り上げ、慣習化の度合いによって多機能性を帯びる「ちょっと」の諸相を、改めてポライトネス理論をもとに再検証した。

第５章（研究協力者金担当）では、複合終助詞である「よね」が、会話における相手との情報共有を表示しつつも、それが相手の私的領域の侵害にならないようにする配慮を表した配慮表現であることを考察した。

第６章（研究分担者大和担当）では、名詞に下接するとりたて詞「なんか」の捉え直し用法のなかに、依頼や提案が相手に押し付けがましくならないようにしたり、自分自身のことを謙虚に表現したりなどのポライトネス機能が見られる現象を配慮表現として考察した。

第７章（研究協力者塩田担当）では、複合補助動詞「させていただく」を、成句レベルで慣習化が起きた配慮表現であるとしたうえで、文脈によってはポライトネスの機能を発揮できずに違和感が発生することを指摘し、そのメカニズムを考察した。

第８章（研究分担者斉藤(幸)担当）では、否定と呼応するとされた副詞「全然」に、近年、述語の肯定形が呼応する「“全然”＋肯定形」の使用実態が増加している傾向について分析し、文脈上で相手が抱いている何らかの心配要素を打ち消そうとする配慮機能が慣習

化した配慮表現であることを指摘した。

第９章（研究分担者小野担当）では、引用表現に話者中心、聴者中心、イベント中心の３種類の構造があり、会話において相手のフェイスに対する配慮によって構造が選択されていることを考察した。特にイベント中心構造における「そう」と「って」の機能の異なりに注目し、「って」がポライトネス意識のより高い配慮表現であるとする新たな見解を示した。

第 10 章（研究分担者三宅担当）は、慣習化した配慮表現のみならず高次の配慮言語行動研究の事例研究である。モバイル・メディアのなかでも利用率の高い LINE において「依頼」が行われる際の談話構造、吹き出しの配置、ヴィジュアル要素の配置などを分析し、それらと配慮の意識との相関関係について考察した。

第Ⅲ部「配慮表現の対照研究」（第 11 章～第 14 章）では、日本語の配慮表現と他言語において対応する表現との対照を試みた論考を収めた。本書の配慮表現の定義によれば、配慮表現は必ずしも日本語に限定された言語現象である必然性はなく、どの個別言語にも見られる現象であるはずである。そのことを踏まえ、日本語教育における配慮表現の適切な導入法を検討していくためにも、他言語との対照研究のなかで配慮表現の体系を整理したいと考えたのである。

第 11 章（研究分担者西田担当）では、英語と日本語において特定の指示対象を持たず、親密な異性を表す代名詞、英語の“she, he, it”と日本語の「彼、彼女」を中心に、対人配慮の表現法について比較対照している。

第 12 章（研究協力者李担当）では、日本語においてポライトネス機能が慣習化した成句の配慮表現を多数取り上げ、それぞれに対応する中国語の表現を示して対照を行っている。

第 13 章（研究協力者 Ali 担当）は、典型的な FTA の一つである断りの表現に限定して、日本語とアラビア語とを対照した論考である。

第 14 章（研究協力者岩崎、Umarova 担当）は、授受補助動詞という文法形式に限定して、日本語とウズベク語とを対照した論考である。

本書の刊行により、配慮表現に関する学界の問題意識を喚起し、日本語教育関係者にもその重要性について呼びかけを行ってまいりたい。そして、その下地のうえに 2023 年頃に『日本語配慮表現辞典』を完成させることを目標として、本研究課題を進めてまいりたい。

6. 『日本語コミュニケーション研究論集』第９号の刊行

研究代表者が牧原功氏、小野正樹氏と共に科研費研究課題の合同研究会として開催してきた「日本語コミュニケーション研究会」が毎年発行している「日本語コミュニケーション研究論集」は三者の科研費報告書を兼ねるとともに、関係する研究者の論考を収録し、研究の進展、議論の活性化を図るものである。本稿は研究論集第 9 号に収録する予定のものである。本研究論集は奇数号を筑波大学（責任者・小野正樹氏）、偶数号を創価大学（責任者・山岡政紀）が担当することとなっており、今号第 9 号は筑波大学の担当である。

謝辞

本稿は科学研究費補助金基盤研究(B)研究課題「日本語配慮表現辞典の基盤形成のための配慮表現正用・誤用データベースの構築」（課題番号 18H00680、2018-21 年度、研究代表者山岡政紀）の助成を受けた研究成果の報告であることを申し述べ、謝意を表します。

参考文献

生田少子（1997）「ポライトネスの理論」『言語』Vol.26 No.6, 66-71, 大修館書店.

グループ・ジャマシイ編（1998）『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版.

刀祢睦月（2013）「副詞「たしかに」と終助詞」『叙説』40, 339-332, 奈良女子大学.

原田信一（2010）「現代東京の話ことばにおける言語形式「たしかに」―大学生による日常会話をデータとして―」『社会言語科学』13－1, 136－150, 日本社会言語科学会.

山岡政紀（2019）「日本語配慮表現データベース構築プロジェクト報告(1)――研究計画と 2018 年度の活動報告――」『日本語コミュニケーション研究論集』第 8 号, 1-14, 日本語コミュニケーション研究会.

山岡政紀編（2019）『日本語配慮表現の原理と諸相』くろしお出版.

山岡政紀・牧原功・小野正樹（2010）『コミュニケーションと配慮表現』明治書院.

山岡政紀・牧原功・小野正樹（2018）『新版・日本語語用論入門』明治書院.

米田達郎（2014）「室町・江戸時代の依頼・禁止に見られる配慮表現」野田・高山・小林編（2014）『日本語の配慮表現の多様性　歴史的変化と地理的・社会的変異』くろしお出版所収、131-148.

李丹（2019）「日语“配虑表达”的特征―从副词「たしかに」的功能说起―」『大連大学学報』第 40 巻第 1 期、総第 199 期、79-84、大連大学.

Brown, P. and S. Levinson （1987） *Politeness: Some universals in language usage*, Cambridge University Press.

Leech, G. （1983） *Principles of Pragmatics,* Longman.

（山岡政紀、創価大学文学部教授、myamaoka@soka.ac.jp）